

# 在日米軍と 北東アジアの安全保障

——朝鮮半島情勢を念頭に

2018年9月22日 梅林宏道

# 話の順序

1. 朝鮮半島情勢と在日米軍
2. 世界の米軍
3. 在日米軍
  - 法的問題
  - 基地の実体
  - 冷戦後の日米安保体制
  - 現在の組織と活動
4. 再び朝鮮半島情勢との関連

# 6・12米朝首脳共同宣言

## ●大目標に合意

「平和と繁栄に向かう新たな米朝関係を確立」

「朝鮮半島の持続的で安定した平和体制構築」

## ●相互にバランスの取れた約束

DPRK(北朝鮮)は**完全な非核化**を約束

現状の申告が必要(弾頭、兵器、核物質、施設)

凍結→無能力化→解体、すべての段階で検証が必要

米国は**安全の保証**を約束

政治的:北朝鮮の承認、外交関係の樹立

安全保障:演習中止、戦争終結宣言、平和条約、米軍駐留

経済的:貿易制限と経済制裁などの除去

## ●相互の信頼醸成の重要性を共有

# 北朝鮮が述べてきた核兵器保有の理由

## ■2006年10月3日 第1回地下核実験予告時の声明

「米国からの核戦争の極度の脅威、制裁と圧力の結果、それに対抗する防衛手段として核抑止力を強化するための核実験に踏み切らざるを得ない。」

## ■2013年4月1日 核兵器国地位確立法・第1条

「DPRKの核兵器は、増大し続ける米国の敵視政策と核の脅威に対抗するために手にせざるを得なかった正当な防衛手段である。」

## ■2017年9月23日 国連総会での李容浩・外相演説

「我が国核戦力の唯一の目的は米国の核の脅威を終わらせ軍事的侵略を阻止するという戦争抑止力である。従って、我々の究極的な目的は、米国と力のバランスを確立することである。」

## ■2018年1月1日 金正恩委員長の年頭の辞

「我が国の核戦力は、いかなる米国の核の脅しも打ち砕き、反撃することができる。それは、米国が冒険主義の戦争を始めることを阻止する強力な抑止力である。」

# 停戦協定・平和条約／在韓米軍・在日米軍

## ◆停戦協定 1953年7月27日

朝鮮人民軍最高司令官・金日成

中国人民志願軍司令・彭徳懐

国連軍司令部総司令官・合衆国陸軍大将マーク・W・クラーク

(1978年以後、米韓合同軍司令官が作戦指揮権)

## ◆戦争終結宣言と平和条約(停戦協定とは独立したもの)

中国はすでに米国、韓国と関係正常化、戦争状態にない

北朝鮮と韓国、米国とのみ戦争状態が続いている

2つ(南北、米朝)の2か国、3か国(米、朝、韓)条約、

4か国(米、朝、韓、中)

## ◆最近の北朝鮮の平和条約、非核化要求

在韓米軍撤退をリンクさせていない。軍事演習の性格を問題視

非核化に在韓米軍の検証可能な非核化を要求している

(在日米軍も米韓軍事作戦に深く関与している)

# 北朝鮮：朝鮮半島非核化の5項目要求

2016年7月6日

- ① 韓国にある核兵器をすべて公表する。
- ② 韓国にあるすべての核兵器と核兵器基地を解体し世界的に検証する。
- ③ 今後、核兵器攻撃手段を韓国及びその周辺に持ち込まないと保証する。
- ④ いかなる場合もDPRKに対して、核攻撃やその脅しをしないと誓約する。
- ⑤ 韓国から核兵器使用権限のある米軍部隊を撤退させる意図を宣言する。

# 米統合戦闘軍

(U.S. Unified Combatant Command)

1. 米太平洋軍 (米ハワイ州キャンプ・スミス)
2. 米欧州軍 (独シュトゥットガルト)
3. 米中央軍 (米フロリダ州マクディル空軍基地)
4. 米アフリカ軍 (独シュトゥットガルト)
5. 米北方軍 (米コロラド州ピーターソン空軍基地)
6. 米南方軍 (米フロリダ州マイアミ)
7. 米特殊作戦軍 (米フロリダ州マクディル空軍基地)
8. 米輸送軍 (イリノイ州スコット空軍基地)
9. 米戦略軍 (ネブラスカ州オフアット空軍基地)
10. 米サイバー軍 (メリーランド州フォートミード陸軍基地)



欧州軍

北方軍

中央軍

太平洋軍

太平洋軍

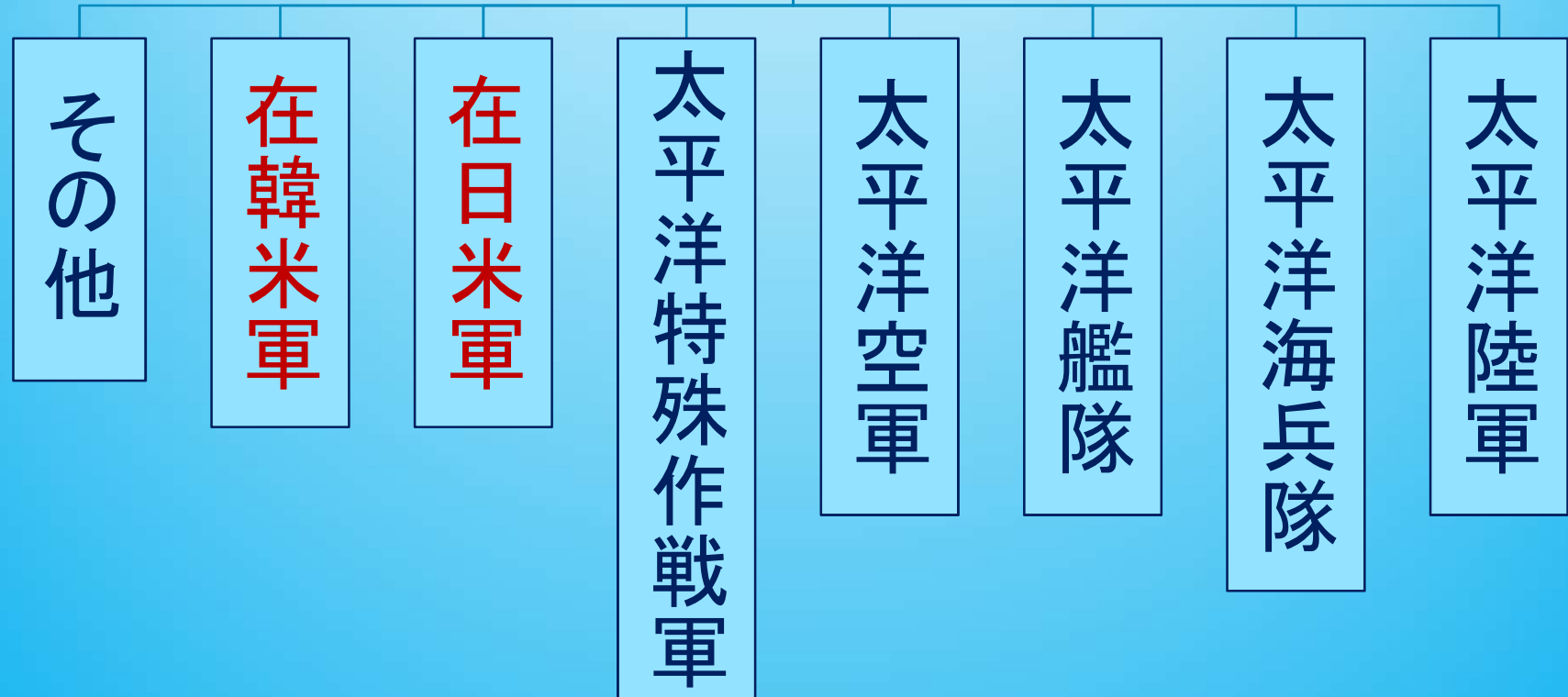
南方軍

アフリカ軍





# 米太平洋軍



# 海外米軍基地の正体

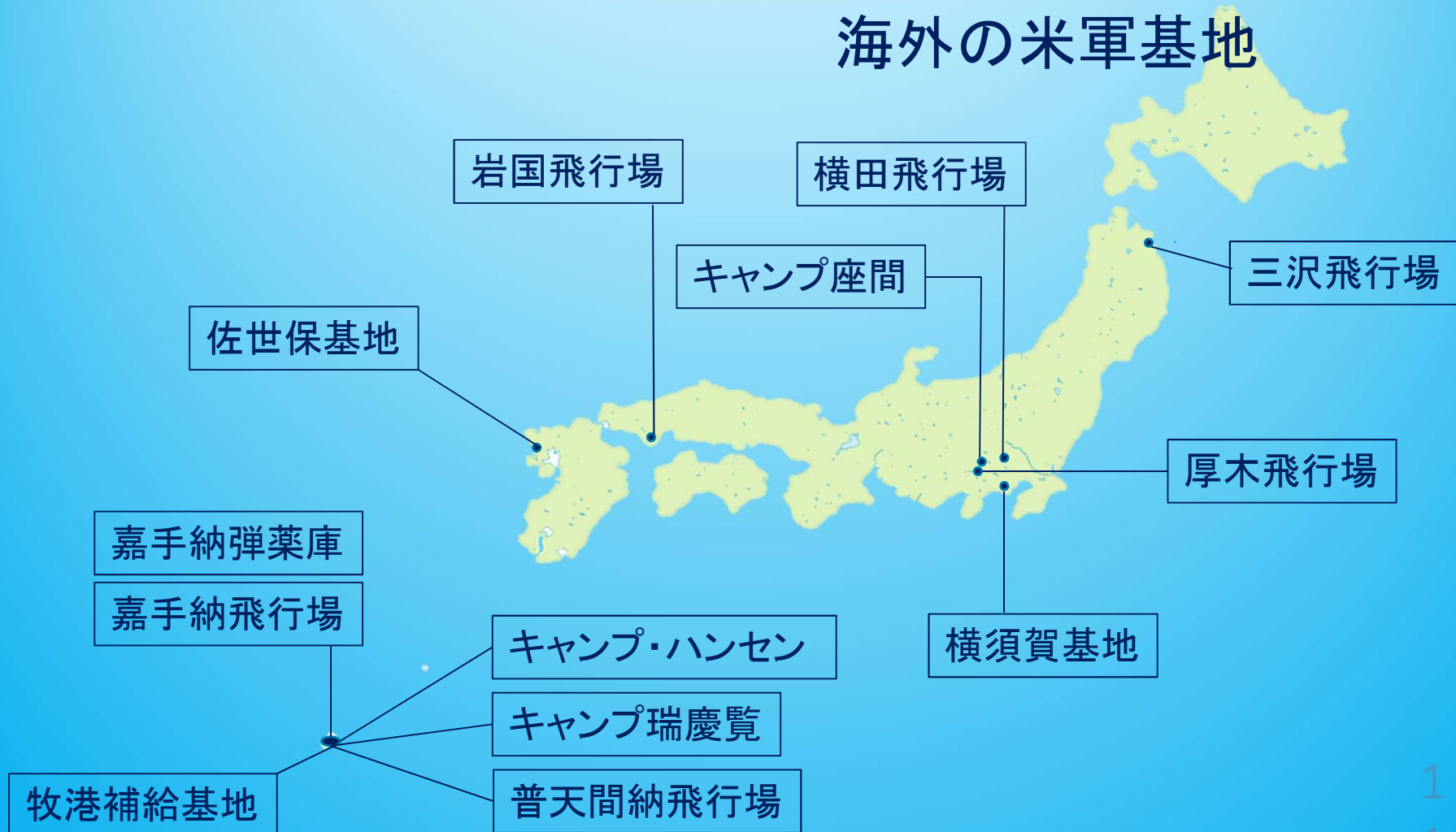
米軍基地の分布(2014年9月末現在)

総数	4855		総数	大型基地	兵力
米州・領土	4268 (88%)	ドイツ	177	7	36,855
海外	587 (12%)	日本	116	13	52,518
		韓国	84	5	29,074
		イタリア	50	3	11,373
		イギリス	27	2	8,495
		世界全体	587	36	226,385

大型基地＝代替資産価値10億ドル以上

# 日本にある米軍大型基地

## 海外の米軍基地



# 在日米軍駐留の法的根拠

## 日米安保条約 1960年

●第5条 各締約国は、**日本国の施政の下にある領域**における、いずれか一方に対する武力攻撃が、自国の平和及び安全を危うくするものであることを認め、自国の憲法上の規定及び手続に従って共通の危険に対処するように行動することを宣言する。(以下略)

●第6条 日本国の安全に寄与し、並びに**極東**における国際の平和及び安全の維持に寄与するため、アメリカ合衆国は、その陸軍、空軍及び海軍が日本国において施設及び区域を使用することを許される。

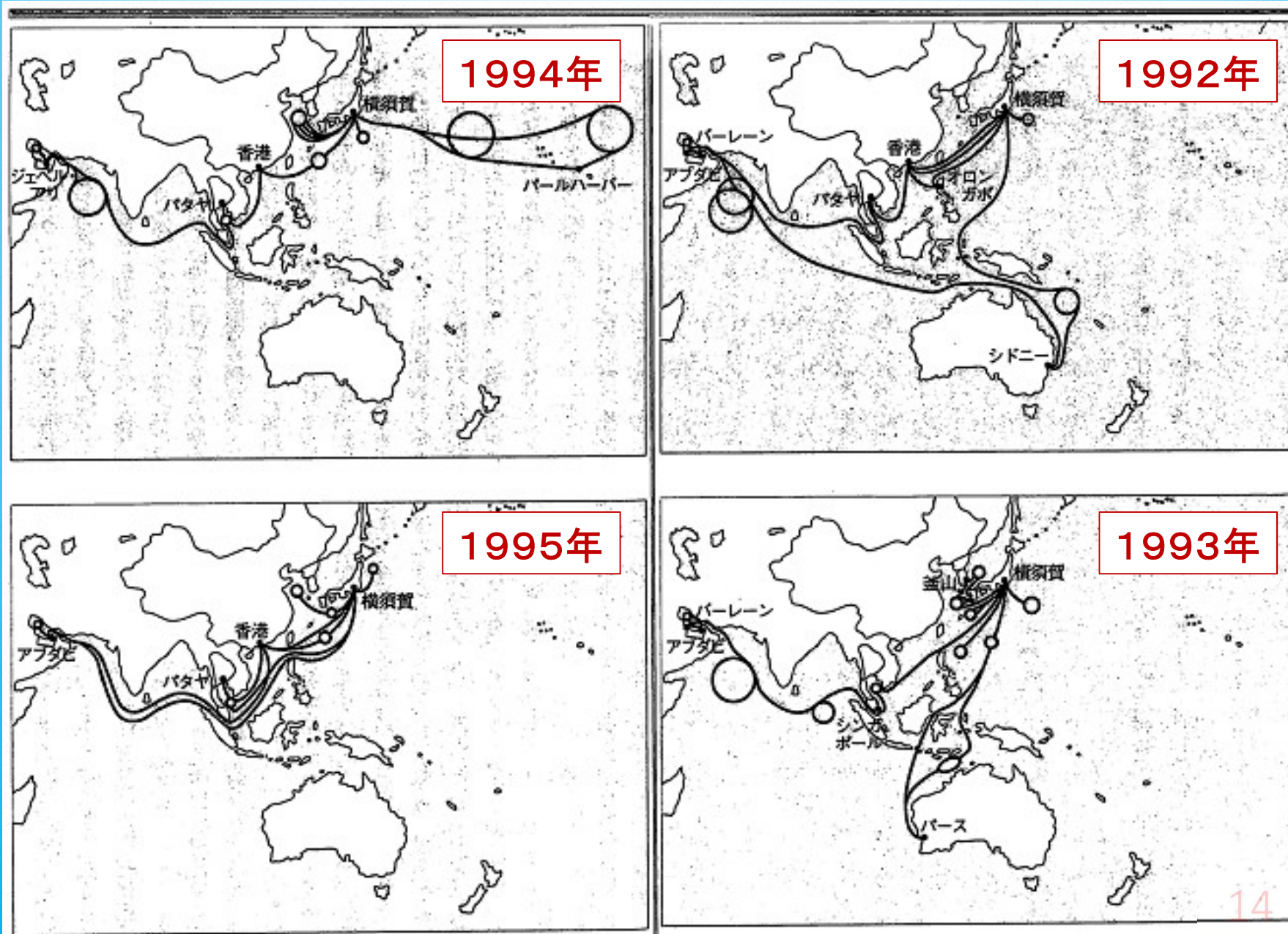
前記の施設及び区域の使用並びに日本国における合衆国軍隊の地位は、…**別個の協定**及び合意される他の取極により規律される。

→「…第6条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の**地位に関する協定**」

# 極東条項の現在

「我が国の施設・区域を使用する在日米軍がその抑止力をもって我が国及び極東の平和と安全の維持に寄与するとの役割を現実に果たしているとの実態がある以上、在日米軍を構成するある部隊、艦船等が日米安保条約の目的達成のための役割に加え、それ以外の任務を有して移動することは日米安保条約上問題がない。」(2003年3月24日、川口順子外務大臣)

# 横須賀母港・空母インデペンデンスの航跡



# 横須賀からイラク戦争に直行した 空母キティホークと巡洋艦カウペンス (2003年1月23日～3月8日)



## 在日米軍兵力 (2011年)

	全国	沖縄	沖縄の比率 (%)
陸軍	2,492	1,547	62.1
海軍	18,271	2,159	11.8
海兵隊	15,751	15,365	97.5
空軍	11,695	6,772	57.9
計	48,209	25,843	53.6

出典：全国の数字は米国防総省(9月末)、沖縄の数字は沖縄県(6月末)



# 冷戦後の日米同盟の変遷

## ( I ) 安保再定義の試み

1991年1月	湾岸戦争、「砂漠の嵐」作戦開始
1992年9月	初の米強襲揚陸艦ベローウッド、佐世保母港化
1995年2-3月	米東アジア太平洋戦略、安保関係・米議会報告書
1995年9月	沖縄海兵隊員による少女暴行事件
1996年4月	日米安保共同宣言「21世紀の同盟」(安保再定義)
1996年12月	SACO最終合意
1997年9月	日米防衛協力ガイドラインの改訂→周辺事態
1998年8月	北朝鮮、テポドン発射
1998年12月	安全保障会議、BMD日米共同技術研究を了承

# 冷戦後の日米同盟の変遷

## (Ⅱ) グローバル安保へ

2001年9月	米国で同時多発テロ→10月7日、不朽の自由作戦
2002年1月	米ブッシュ大統領、一般教書で「悪の枢軸」発言
2003年3月	イラクの自由作戦
2003年11月	米ブッシュ大統領「 <b>海外軍事態勢の見直し</b> 」
2003年12月	安保会議・閣議、BMDシステム導入決定
2004年10月	パウエル訪日、「 <b>戦略協議</b> 」の開始
2005年2月	日米共同声明「共通の戦略目標」
2005年10月	日米共同声明「日米同盟：未来へ転換と再編」
2006年5月	日米共同声明「再編実施ロードマップ」
2010年12月	米軍駐留経費負担の包括的見直し合意
2012年2月	日米共同発表、普天間移設とのリンケージ否定

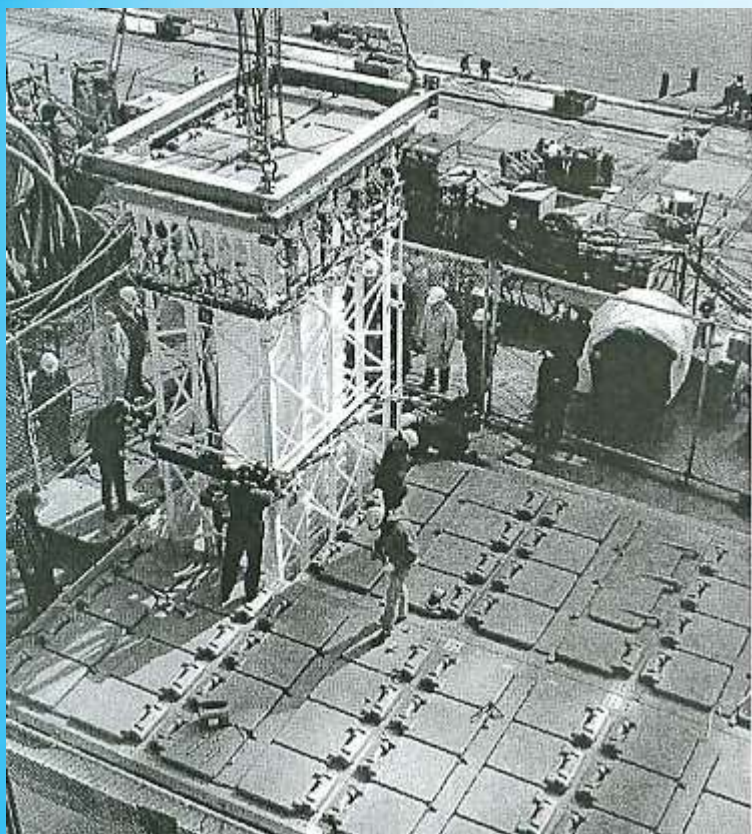
# 冷戦後の日米同盟の変遷

## (Ⅲ) 日本の〈積極的平和主義〉

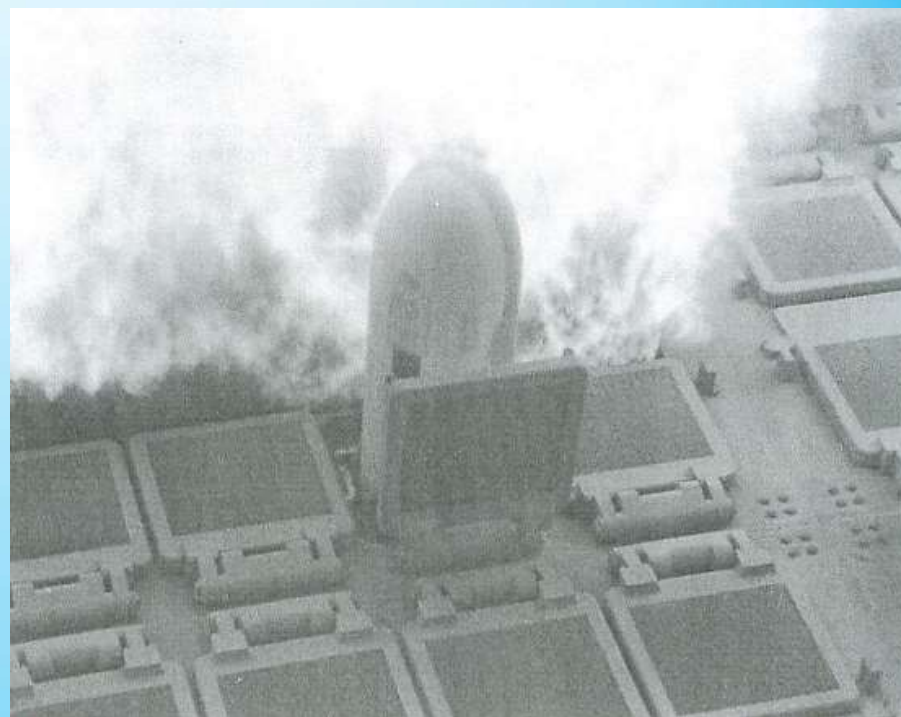
2013年12月	安倍政権「 <b>国家安全保障戦略</b> 」と <b>積極的平和主義</b>
2015年4月	「日米防衛協力がトライン」再改定
2015年9月	<b>安保法制成立</b> 。集団的自衛権の条件付き容認
2016年3月	安保法制施行
2016年11月	南スーダン派遣陸自PKO部隊に〈駆けつけ警護〉任務
2017年1月	日豪ACSA、弾薬提供に拡大する改訂
2017年4月	日米改訂ACSAが発効
2017年5月	海自艦による初の米艦防護任務の実施
2017年5月	BMD任務中の米イージス艦に自衛艦が給油を開始

# 在日米海軍の組織と活動

- 第7艦隊 司令部: **旗艦ブルーリッジ** 横須賀
- **第5空母打撃群(CSG)** 横須賀  
原子力空母ロナルド・レーガン  
随伴艦(ミサイル巡洋艦3隻、ミサイル駆逐艦8隻)  
第5空母航空団(厚木→岩国)
- **第7遠征打撃群(ESG)** 佐世保、沖縄ホワイトビーチ  
強襲揚陸艦ワスプ  
第11水陸両用船隊(ドック型揚陸輸送艦1隻、ドック型揚陸艦2隻)  
第7海軍ビーチ部隊 エアクッション上陸用舟艇(LCAC)
- **巡航ミサイル・トマホーク**対地攻撃 横須賀  
全てのイージス艦に垂直発射システム(VSL) 11隻
- **ミサイル防衛** 7隻がミサイル防衛能力 横須賀  
スタンダード・ミサイル3(SM3)
- **原子力潜水艦**の寄港地 横須賀、佐世保、ホワイトビーチ



甲板上の垂直発射管



トマホーク発射の瞬間



駆逐艦マッケイン

# 在日米海兵隊の組織と活動

## ●空地任務部隊の4要素

- ①歩兵・砲兵など地上戦闘部隊
- ②攻撃機、輸送機など航空戦闘部隊
- ③建設土木、武器・弾薬・糧食補給、医療など兵站支援部隊
- ④偵察・通信を含む司令部部隊

## ●第Ⅲ海兵遠征軍(ⅢMEF)

第3海兵師団 司令部: キャンプ・コートニー 常駐とローテーション

第1海兵航空団 司令部: キャンプ瑞慶覧

第36海兵航空群 オスプレイ飛行隊 (普天間飛行場)

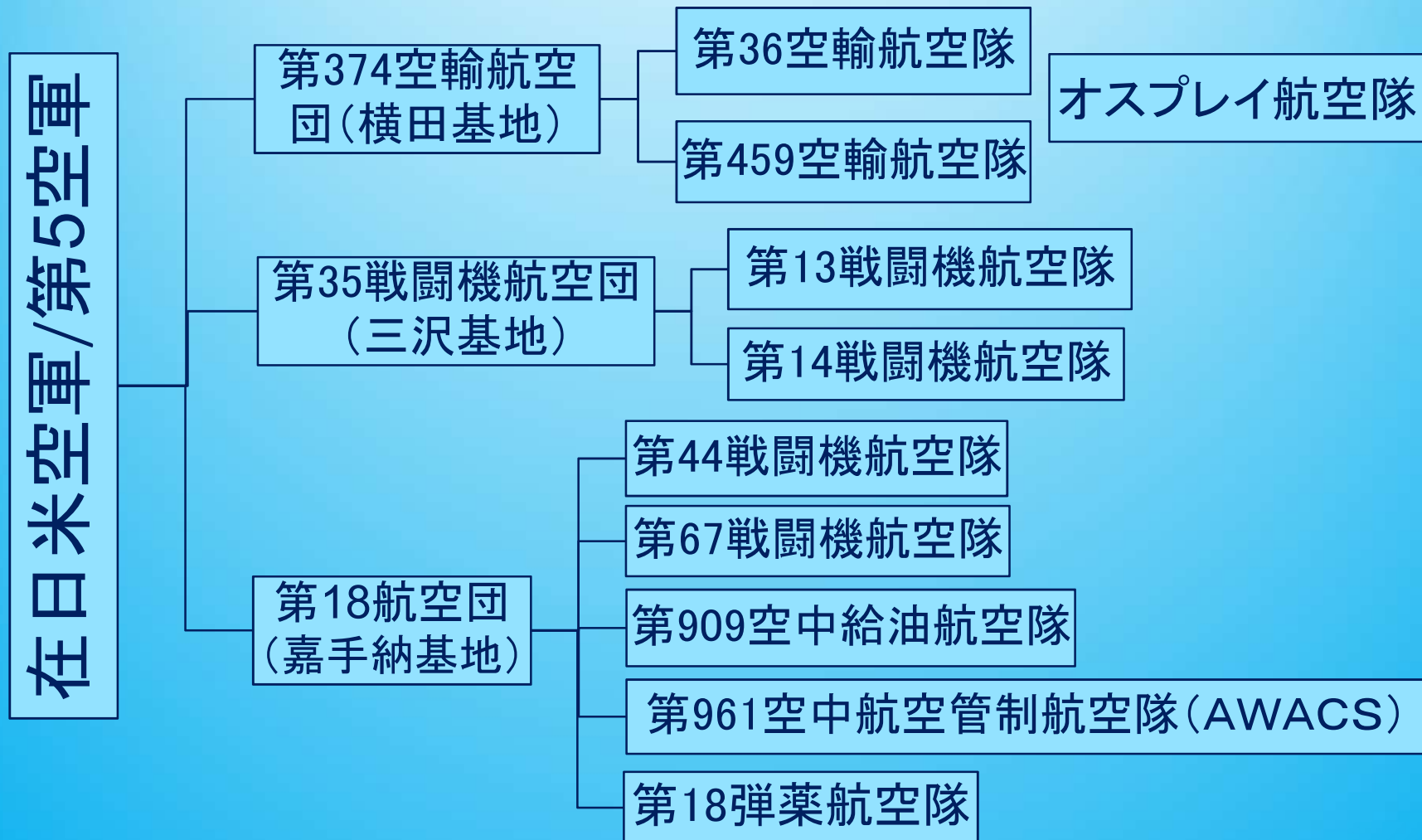
第12海兵航空群 戦闘攻撃機FA18ホーネット飛行隊

戦闘攻撃機F35BライトニングⅡ飛行隊  
(岩国飛行場)

第3海兵兵站群 牧港補給地区

## ●第31海兵遠征部隊(31MEU) 佐世保の部隊との組み合わせ

# 在日米空軍の組織と活動



# 日米・米韓空爆演習

2017年8月31日



グアム：B1B爆撃機2機。岩国：F35戦闘機4機。韓国：F15K4機。自衛隊：F15J2機。  
日米演習：北九州上空→米韓演習：韓国東海岸射爆場



# 在日米陸軍の組織と活動

- **在日米陸軍／第1軍団(前方)** キャンプ座間  
建前上の戦闘司令部  
全軍の支援が中心 第10地域支援群  
第35継戦支援大隊 相模補給廠  
弾薬廠 秋月、広、川上弾薬庫
- **第1特殊部隊群第1大隊(グリーンベレー)** トリステーション
- **第94陸軍防空・ミサイル防衛軍第100ミサイル防衛旅団**  
第10ミサイル防衛中隊(つがる市車力) Xバンドレーダー  
第14ミサイル防衛中隊(京丹後市経ヶ岬) Xバンドレーダー  
第1防空砲兵連隊第1大隊(嘉手納) PAC3
- **陸軍地上配備配送軍・第599輸送旅団**  
第835輸送大隊(沖縄) 那覇港湾施設  
第836輸送大隊(本土) 横浜ノースドック

# 在日米軍と在韓米軍

## 戦略的独立と有事相補性

### 米軍兵力の比較

	陸	海	空	海兵	合計
在日米軍	2,594	20,345	12,086	20,001	55,026
在韓米軍	16,413	309	7,945	247	24,915

2018年3月31日現在

# 在韓米軍の安保再定義

2004年10月 陸軍中心に約12,500人(約3分の1)を米本土に撤退

竜山(ヨンサン)基地の大分部分を返還

平澤(ピョンテク)のキャンプ・ハンフリーを3倍に拡張して巨大基地建設

2006年1月 戦略的柔軟性に合意

(ライス国務長官と潘基文外相の共同声明)

「韓国は在韓米軍の戦略的柔軟性の必要性を尊重する」

「米国は韓国民の意志に反して北東アジアにおける地域紛争に韓国が巻き込まれるべきではないという韓国の立場を尊重する。」